

令和6年度 学校関係者評価委員会報告を受けて【重点目標の改善結果並びに来年度へ向けての取組】

令和6年度の教育活動を振り返り、その成果と課題を明確にするとともに、令和7年度の教育課程編成を行いました。保護者や地域の方による学校関係者評価アンケート、児童の生活アンケート、本校教職員による自己評価などをもとに教育活動や学校運営の改善方策の見直しを行い、学校関係者評価委員会の皆様から提言をいただきました。アンケート集計結果・学校関係者評価委員会報告につきましては、今後本校ホームページに掲載いたしますのでご確認ください。

【重点目標1】知・徳・体の資質・能力の育成、キャリア・未来デザイン教育の実現を目指し、主体的・対話的で深い学びにつながる話合いや体験活動を積極的に取り入れ、子どもが「分かった」「できた」「楽しい」と感じられる授業改善や子ども主体の教育活動の推進に努める。

児童の学校関係者評価アンケートにおいて、今年度のアンケート「1. 学習について」に新設された『学ぶことが楽しい』という項目では、82.7%、児童の学校生活アンケートにおける『授業中「わかった」「できるようになった」と思う』という項目では、87.6%の肯定的評価となりました。授業改善に関わる学校関係者評価アンケートにおいては、考える時間や意見共有機会の確保、黒板の書き方の工夫、映像やタブレットの活用等の4項目とも80%以上の子どもたちが肯定的に回答していました。学習面では概ね、肯定的回答が高い評価をいただきました。

本校では、年度初めに主体的・対話的で深い学びのある授業の流れを共通理解し、校内研究のテーマを「自分をふり返り、学びを積み重ねる子の育成」として授業改善に努めてきました。また、タブレットも様々な教科で幅広く活用し、授業の中で考えの共有の場としてロイロノートアプリを使って意図的に展開しています。今年度もこれらの努力が評価につながったと考えます。令和7年度もさらに充実に努めてまいります。

【重点目標2】誰一人取り残さずに、全ての子どもたちが共に学び共に育つことができるインクルーシブ教育を推進するため、子ども一人一人のよさを認め、一人一人に寄り添った組織的なサポート体制をつくり、子どもが夢や希望をもち、安心して学校生活を送れる基盤を構築する。

本校では、教員・主事に加え、講師や支援員、サポーターといった様々な立場の人たちが、それぞれの役割を果たしてサポートに当たっています。本校で引き続いて行われている、学校支援コーディネーターと小1サポーターによる1年生への支援は、保護者の皆様や子どもたちの安心・安全につながりました。今後も、チーム太子堂として、安心・安全な体制づくりを整えてまいります。

学校関係者評価アンケートの「子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」についての肯定的評価は、5、6年生が79.0%、保護者が37.7%と評価に差異が認められました。学校関係者評価委員会からは、「保護者の回答の35%が「わからない」としていることは、実際に授業を見る機会が乏しいこと、質問の内容に具体性が乏しいことが評価の数値に出ていると思われるため、分かりやすく伝えていく必要があると思われます。」と改善策のご意見を頂いています。世田谷区の教育目標でもある「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」の充実に向け、丁寧な説明について効果的な手段を検討し、ご家庭や地域の皆様の協力を得られるようにしていきたいと考えています。

【重点目標3】学校・家庭・地域が連携・協働し、いじめ・不登校、学力向上など、様々な教育課題を解決したり、子どものよりよい生き方につながる教育活動を展開したりし、子どもの自己肯定感向上と健全育成に努める。

令和6年度も子どもの自己肯定感の向上に向け、3年生以上でWEBQU（学級経営アセスメントツール）を実施して、児童がクラス内でどのような思いを持ちながら生活しているのか、児童理解に努めてきました。年2回実施し、児童の変容を見取りながら、個々の児童への最適なアプローチを各家庭と連携しながら行ってきまし

た。学校関係者評価委員会報告では、昨年度と比較し、「私は、自分のことが好きである。」「わたしは、授業中、手をあげて発言しようとしている。」の2点の結果から「自尊感情の高まりを感じるとともに、全学年、非常によく取り組まれている。」という報告を受けました。昨年度、自尊感情を高める方法として、「授業の中で、頑張っていることを先生からも褒められ、周りの児童からも称賛されるような経験の積み重ねと、家庭でも頑張っていることを褒められるような体験が自尊感情を高めます。」とのアドバイスを受け、学校・家庭・地域での連携の充実を図り、児童の自己肯定感の向上に努めた結果ととらえるとともに、今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。また、継続的な取り組みを今後も行う中で、教職員アンケートの「家庭学習の取り組み」「地域理解」「挨拶習慣」「小中連携」の4点の課題を解決していくことがより効果的ではないかという報告を受けています。「家庭学習の取り組み」では、アドバイスしたり、褒めたりすること、「地域理解」では、学区域の散策をしたり、祭りなどの行事に参加したりすること、「挨拶習慣」では、教員自ら、より積極的に挨拶すること、「小中連携」では、中学校の公開授業等に参加し、報告、共有することを改善策として取り組んで参ります。

今回の学校評価でも、地域から学校に対する温かい思いを感じる結果となりました。令和6年の能登半島地震を受け、地域との連携をより深め、防災意識の向上を図るために、令和6年度は太子堂地区合同防災訓練に学校も参加させていただきました。児童だけでなく保護者の方にも参加していただき、地域の方々と共に防災についての意識を醸成させる、とても有意義な時間となりました。次年度も特色ある学校の取り組みの一つとして関係機関と連携しながら取り組んで参りたいと思えます。

今年度、保護者や地域の皆様にはご不便・ご迷惑をお掛けしたことも多々あったかとは思いますが、温かいご支援・ご協力をいただき、令和6年度を終えられることに心から感謝申し上げます。ここでは紹介できませんが、日々の教育活動における皆様からのご意見・ご感想等も踏まえて、教育内容の改善・充実に努めます。次年度が、児童にとって希望に満ち溢れる豊かな1年になるように教職員一同力を合わせて参ります。今後ともどうぞご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(副校長 梅田 正弥)